

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



奥山源栄氏（左）へ依田光弥身延町長から感謝状が贈られました

甲州金・江戸金貨91点が博物館へ！ 奥山源栄家より寄付

奥山源栄氏（笛吹市春日居町在住）より、甲州金、江戸金貨のご寄付のお申し出をいただきました。大変貴重な歴史資料ですので、当館で管理し、常設展示室でこれからも末永く公開・活用して参ります。（→関連記事4ページ）

有料入館者20万人をお迎えして 伝えたもの・伝えていきたいもの

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一 夫

このほど湯之奥金山博物館の有料入館者が20万人を突破しました。有料入館者とは、平成9年4月24日の開館初日、最初に観覧チケットを購入していただいた1人目のお客さんから数えて、チケットに印字された累積数字の実数が20万に達したものです。

館主催の企画展・特別展・公開講座・親子映画観賞会・遺跡見学会・砂金掘り大会・日曜コンサートなどのイベント参加者や、県民の日や出前講座、学校行事による児童・生徒の無料入館者の数は一人も含まれていません。その数を入れますとこの数字はさらに膨らみます。

さて、今回は20万人を機に、金山博物館が「伝えたもの・伝えていきたいもの」を改めて考えてみたいと思います。

日本の産業遺産（金山）を伝えています

金山博物館が伝えているものは、日本の鉱山史上における金山遺跡のあり方です。

日本の産金の始まりは、西暦749年（天平21）、宮城県涌谷の黄金山産金遺跡（国史跡）です。涌谷の金は百済の王敬福によって聖武天皇に献上され、国分寺の総本山・奈良東大寺の大仏（盧舎那仏）の鍍金に間に合ったことを「続日本記」は伝えています。日本の産金は記録でもこれが最初です。

以後、750年余り日本の産金活動は、川床の砂金と河岸段丘上に残された芝金の採掘に注がれてきたと言えます。

西暦1400年末～1500年初頭に、砂金を追い求め、その上流域に風化した金鉱石を発見、露天掘りが始まったと思われませんが、これが山金（金鉱石からの産金）の開始時期になります。その初源的な山金山の様相をもつ金山が、湯之奥中山金山や黒川金山で代表され、両金山は国指定史跡「甲斐金山遺跡」（黒川金山・中山金山）として評価され守られています。

これらの歴史事実を明らかにしたのが、平成元年を挟み前3年間に、黒川金山、後3年間に湯之奥中山金山で行われた総合的学術調査でした。

当博物館は、これらの全容をガイドンしている日本で唯一の学術的な専門館として活動しています。

金山史研究の拠点として55回に及ぶ公開講座は、全国から第一線で活躍している講師陣をお願いし、その内容は「金山史研究」にまとめられています。館が伝えてきたもの、伝えていきたいものは、この歴史事実です。

ちなみに、金山と言えば佐渡金山や土肥金山などが頭に浮かぶと思いますが、それらの金山は江戸時代の金山、中山金山の開始時期からみると、数十年も後の金山ということになります。

館利用者には敷居を設けず

しかし、博物館という公共空間は、これだけの使命ではありません。そのため開館当初から開かれた博物館をめざし、敷居も設けない、誰もが気軽に利用できる、この方針を貫いてきています。地域の子どもの居場所も提供してきました。博物館に必要なものは、歴史を伝えると共に、人や家族、地域の絆をつくる場であると考えています。

一声かけたことから始まった有名私学対抗砂金掘り大会、一般大会につづき毎年8月第1土曜日に開催していますが、神戸・灘中高、東京・開成中高、甲府・駿台甲府中高、山梨学院大付中高、東京・海城中高、立教新座中高などに発展、やがては日本の指導者になるだろう優秀な若者が、競技を通じ一堂に集い、語り合うチャンスを得ることで、生徒の未来はさらに広がります。

もう一つの夏の行事である「こども金山探検隊」プログラムは、実際に金山遺跡まで登山し、昔の技術を体験、科学する芽を引き出しますが、それ以上に友の会や山岳会の多くのボランティアの皆様の協力があって、可能にしています。その姿を見せることで、協力し合うことの尊さなども伝えたい、博物館プログラムは、全ての行事の中で、何かを伝えたい。その取組みの連続を考えています。こうした館の姿勢は館利用者へ伝わり2001年からの来館者増に結びついていると思います。

活動報告

奥山源栄家から金貨をご寄付いただきました

3月21日(金)

平成14年5月から当館二階の常設展示室において、甲州金貨・江戸金貨、計89点、玩賞金貨9点、その他2点の計100点を、メイン展示資料「奥山コレクション」として多くの方にご覧頂いておりました。

この度、奥山氏のご厚意により、これらの甲州金及び江戸金貨、その他関連資料を身延町へご寄付頂き、当館へ収蔵され、引き続き常設展示室において公開されます。

奥山コレクションについては、第5回企画展『金貨～甲州金から幕府の金へ～』で出展された直後、当館に寄託され、戦国時代に通用した地方金貨・甲州金と江戸幕府の金貨及び関連資料を貴重な歴史資料として常設展示しています。また、当館展示図録や記録集・金山史研究におい

ても、「奥山コレクション」として公開することによって、広く学術研究に寄与してきているものです。

奥山家のご厚意に感謝して、3月21日には、当館多目的ホールにて、依田身延町長から感謝状贈呈式が執り行われました。

寄贈いただいた金貨の内訳は、博物館に寄託されていた100点の資料のうち、玩賞金貨9点を除く91点です。

今後、甲州金は当館常設展示で、江戸期の大判・小判については、各館への巡回展などで広く貸し出しを行うなどの活用方法も検討しています。

また、これらの貴重な資料は、町の指定文化財に登録した後に、県指定文化財として登録できるよう関係機関の協力を頂きながら準備を進めていきたいと考えています。

寄付金貨一覧表

番	貨幣名称(公称)	番	貨幣名称(公称)
1	古甲州金 壹分判(石目打、下端に花押極印)	47	慶長一分判
2	古甲州金 貳朱判(石目打、下端に花押極印)	48	元禄小判
3	古甲州金 貳朱判(石目打、下端に花押極印)	49	元禄一分判
4	古甲州金 壹分判(平滑、中央に花押極印)	50	元禄二朱判
5	古甲州金 壹分判(平滑、中央に花押極印)	51	宝永小判
6	古甲州金 貳朱判(平滑、中央に「忠」字花押印)	52	宝永一分判
7	古甲州金 壹朱判(平滑、中央に「忠」字花押印)	53	宝永一分判
8	古甲州金 壹分判(平滑、へそ)	54	享保大判
9	古甲州金 壹分判(平滑、へそ)	55	享保一分判
10	古甲州金 壹分判(平滑、へそ)	56	享保一分判
11	古甲州金 壹分判(平滑)	57	元文小判
12	古甲州金 貳朱判(平滑)	58	元文一分判
13	古甲州金 貳朱判(平滑)	59	元文一分判
14	古甲州金 貳朱判(平滑)	60	文政小判
15	古甲州金 貳朱判(平滑)	61	文政一分判
16	古甲州金 貳朱判(平滑)	62	文政一分判
17	古甲州金 貳朱判(平滑)	63	五両判
18	古甲州金 壹朱判(平滑)	64	天保小判
19	古甲州金 壹朱判(平滑)	65	天保一分判
20	古甲州金 壹朱判(平滑)	66	天保一分判
21	古甲州金 朱中判(平滑)	67	安政小判
22	新甲州金 甲安今吹壹分判	68	万延大判
23	新甲州金 甲安今吹貳朱判	69	万延小判
24	新甲州金 甲安今吹壹朱判	70	万延一分判
25	新甲州金 甲安今吹壹朱判	71	文政真文二分判
26	新甲州金 甲安今吹壹朱判	72	文政草文二分判
27	新甲州金 甲安今吹壹分判(吹増判)	73	安政二分判
28	新甲州金 甲重壹分判	74	安政二分判
29	新甲州金 甲重壹分判	75	万延二分判
30	新甲州金 甲重壹分判	76	万延二分判
31	新甲州金 甲重貳朱判	77	天保二朱判
32	新甲州金 甲重貳朱判	78	天保二朱判
33	新甲州金 甲重貳朱判	79	万延二朱判
34	新甲州金 甲重壹朱判	80	万延二朱判
35	新甲州金 甲重壹朱判	81	万延二朱判
36	新甲州金 甲重壹朱判	82	文政一朱判
37	新甲州金 甲重壹朱判	83	古甲州金 壹分判
38	新甲州金 甲重壹朱判	84	古甲州金 壹分判
39	新甲州金 甲重朱中判	85	古甲州金 壹分判
40	新甲州金 甲定壹分判	86	古甲州金 壹分判
41	新甲州金 甲定壹分判	87	古甲州金 貳朱判
42	新甲州金 甲定貳朱判	88	古甲州金 壹朱判
43	新甲州金 甲定壹朱判	89	古甲州金 壹朱判
44	新甲州金 甲定壹朱判	90	銭升
45	新甲州金 甲定朱中判	91	試金針・石セット
46	慶長小判		

古甲州金	28点
新甲州金	24点
江戸金貨	37点
銭 升	1点
試金針・試金石セット	1点
総 計	91点



谷口館長からは記念品が奥山氏に贈られました



寄付を受けた「奥山コレクション」の金貨の数々

日 新 聞 2008年(平成20年) 1月11日 金曜日

武田金山家に独自技術

鉛を使い 大量に製錬



戦國期の武田家田を安えた黒川金山があった黒川谷(山梨市YBSへリ)「ニュースカイ」(NEWSKY)から空撮

戦国期の奥山 湯之奥の 學術団体が解明

黒川金山は、湯之奥の奥山にあり、戦国期の武田家田を安えた黒川金山があった黒川谷(山梨市YBSへリ)「ニュースカイ」(NEWSKY)から空撮



黒川金山遺跡出土の金製錬器具

2008年1月11日金曜日
山梨日日新聞掲載記事

甲斐金山で、鉛を用いた金製錬技術が推定されてはいましたが科学的に確認できていませんでした。そのため、このほど帝京大学山梨文化財研究所、山梨県立博物館、当館、県下関係市町村の研究者らによって、山梨県内に存在する金山遺跡の歴史を総合的に解明することを目的として「甲斐金山遺跡研究会」が組織され、調査研究に乗り出しました。

平成19年度公開講座終了

10月～2月

黄金の国ジバングの深層を探るシリーズ③「金・銀鉱山遺跡と黄金文化」をテーマとした平成19年度公開講座が、好評のうちに閉幕となりました。

通算第54回となる1月は、2本立ての講義で、前半を「国指定史跡「甲斐金山」(黒川金山・中山金山)の歴史と今後の取り組み」と題して、当館の谷口館長が担当し、これまでとこれからの金山史研究について概観し、後半は、山梨県立博物館の杓名貴彦学芸員が担当し、「湯之奥金山と黒川金山から発見された金製錬技術に関する新発見」と題してお話されました。

県内の新聞記事でも大きく取り上げられたばかりの新鮮な情報と研究成果ということも手伝ってか、

聴講には県内外から40名以上の方々が集まり、金山や金に対する興味の高まりが伺われる講義でした。

最終講義となった2月の第55回目の講義は、「黄金の国ジバング」の世界遺産登録の可能性」と題して、奈良文化財研究所上席研究員の村上隆先生に、日本の金銀鉱山遺跡の現状を総括いただきました。

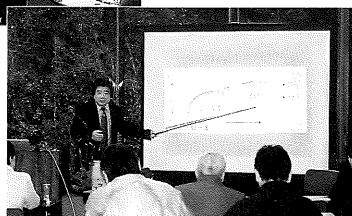
村上先生は、日本における生産遺跡の研究における第一人者で、これまで手がけた数多くの研究成果が、発表の中でも取り上げられました。奈良の飛鳥池遺跡の金製品の生産工房に関する成果発表では、鉛を使った石吹き、皿吹き(灰吹きとは異なる技術)があったのではという新知見が出されるなど、興味深いお話をされました。また、「黄金の国ジバング」という括りは大事なテーマで、その可能性はあるとの見解を示されました。

なお、この講演は『金山史研究』としてとりまとめ、平成18年度公開講座記録集を第9集、平成19年度公開講座記録集を第10集として、講師を務めてくださった先生方のご協力をいただき、近日中に同時刊行を予定しており、現在準備を進めています。

平成20年度公開講座も、新たなテーマの下、この10月から開催予定です。ご期待ください。



谷口館長と杓名学芸員 (1月19日)



村上隆先生 (2月9日)

南部警察署より感謝状

2月15日(金)

昨年度は警察署の統合により、身延町は市川警察署から南部警察署へと管轄が移りましたが、警察署員の皆様方からは、博物館に対して引き続き警備などで、防犯にご配慮をいただいております。

今般、南部警察署長から感謝状贈呈の知らせ

を頂き、去る2月15日には、贈呈式において感謝状を賜りました。

いつも館を気にかけてくださる、警察署員の皆様に深く感謝すると同時に、署員の皆様のますますのご健勝を祈念いたします。

平成19年度第2回運営委員会開催

3月25日(火)

去る3月25日、今年度第2回運営委員会が招集されました。委員長、副委員長をはじめ、委員、事務局含めて14人による会議の中、19年度博物館事業経過及び運営状況報告と、調査・研究（茅小屋金山遺跡調査）、奥山コレクション寄付について、また、平成20年度の事業計画・調査研究に向けての報告がなされました。

報告を受けた委員の先生方からは、上向きの

入館者推移や学校関係施設の利用頻度の増加などから、職員のめざましい日常活動に対する評価と、今後の館の方向性について活発なご意見が出されました。

また、奥山コレクション寄付についての意義や今後の研究への重要性、同時に今後の資料取り扱いなどについても有意義かつ重要な意見をいただきました。

九州大学総合研究博物館で小松学芸員が講演

3月8日(土)

九州大学に併設されている総合研究博物館では、毎年、学生・一般向けの公開講演会を開催しています。今年度は、鉱山関連の話題をテーマに、鉱山遺跡を楽しむためのきっかけを提供するという趣旨で開催されましたが、その際、山梨の金山の紹介や金山関連の道具・技術等の話題で、1時間程の講演依頼を受け、講師として小松学芸員が九州大学へ赴き、湯之奥金山をはじめとする甲斐金山の紹介、鉱山作業、最近の金山研究の動向と新資料の発表などについて、博物館での独自事業などと絡めて講師として九州大学の教壇に立ち講演しました。

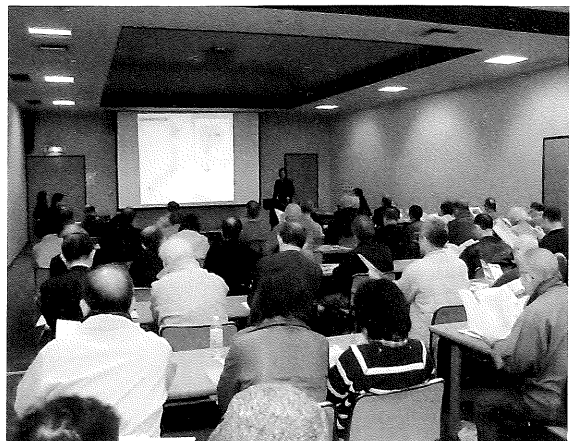
九州大学というと、同大学名誉教授の井澤英二先生には、湯之奥金山調査時から現在に至るまで、調査研究にも携わっていただき、また当館の展示監修もしていただくなど永くお世話になっております。また、今秋オープンする世界遺産に登録された石見銀山世界遺産センターの監修も手がけられている重鎮で、鉱山学を地質（鉱床学）という面で研究者から一般に対するまで幅広く、明快に解説出来る日本でも数少ない研究者・知識人のお一人です。館だより前号でも富士山と湯之奥金山のかかわりについてレポートを頂き掲載したところです。

今回の講演会でも、最初の講師として、古代

から近代までの鉱山について、風景写真などを織り交ぜながら、鉱山の歴史の全体像を概観したお話をなされました。

また、3人目の講師を勤められた島根・松江高等専門学校の工学博士・久間英樹先生は、石見銀山世界遺産登録の際に、人が入ることの出来ないような狭い坑道の中をロボット探査により解明した研究者の一人であり、今回の講演でも、その時の調査の様子や、ロボットのシステムなどについて分かり易くお話されました。

当日は約80人の聴講者が集まり、鉱山遺跡に対する興味の有り様を伺い知ることが出来たと同時に、主催者側でも予想を大きく上回る人の入りに喜んでおられました。



有料入館者20万人突破！

3月23日(日)

春休みに入り、大勢のお客様がご来館いただいた日曜日の昼下がり、当館は20万人目の有料入館のお客様をお迎えすることが出来ました。

この幸運を引き当てられたのは、川崎市在住の近藤泰史様ご夫婦でした。驚いているお二人に、谷口館長から花束、記念品が手渡された他、今回は節目の20万人目ということで、下部温泉郷・下部ホテルのペア宿泊券もプレゼントされました。

お二人は下部温泉を訪れるのは初めての事で、「よく、記念入館者のニュースなど、どういう人が当たるんだろうと思っていましたが、まさ

か自分が当たるとは思わなかった」と素直な感想をくださいました。谷口館長から館内を案内された後、砂金採り体験を楽しむなど、館を十分に堪能され、丁寧なお礼を述べて帰られました。



ますます飛躍！平成19年度の有料入館者数は23,102人

去る3月23日に有料入館者20万人を突破するなど、年度末に、入館者数についての良いお知らせが出来たところです。今年度はそれに加え、年間有料入館者数も目標の開館年次（平成9年）の22,301人突破を目指しましたが、日常の館活動が実り、それを越える23,102人をお迎え出来ました。

昨年度は山梨県下「NHK大河ドラマ風林火山」の影響がどのように各観光地に波及するのか、各地とも期待と不安が入り交じった状況でしたが、当館では、日常の来館者情報を分析していますが、「大河ドラマ」による影響は少なかったようです。2001年度からの上昇気流に乗った来館者傾向だったと見られます。

これからも変わらぬサービスとおもてなしを皆様にご提供して参りますので、皆様のさらなるご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

月別有料入館者数は次表のとおりです。

平成19年度 博物館利用状況

年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入 館 者	年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入 館 者
			観 覧	体 験	共 通	合 計					観 覧	体 験	共 通	合 計	
19. 4	2週無休開館 28	大 人	1,042	398	401	1,841	33	19. 11	26	大 人	969	311	358	1,638	91
		中学生	6	186	24	216				中学生	2	22	6	30	
		小学生	37	118	77	232				小学生	78	67	33	178	
		小計	1,085	702	502	2,289				小計	1,049	400	397	1,846	
5	26	大 人	867	378	625	1,870	10	12	23	大 人	449	153	136	738	11
		中学生	2	177	20	199				中学生	0	8	2	10	
		小学生	177	143	98	418				小学生	0	49	15	64	
		小計	1,046	698	743	2,487				小計	449	210	153	812	
6	26	大 人	686	319	527	1,532	114	20. 1	26	大 人	439	144	190	773	3
		中学生	1	82	6	89				中学生	10	11	12	33	
		小学生	19	48	167	234				小学生	5	42	57	104	
		小計	706	449	700	1,855				小計	454	197	259	910	
7	27	大 人	827	320	521	1,668	50	2	25	大 人	334	112	145	591	51
		中学生	20	131	21	172				中学生	2	7	1	10	
		小学生	70	159	65	294				小学生	11	34	22	67	
		小計	917	610	607	2,134				小計	347	153	168	668	
8	無休開館 31	大 人	1,412	925	1,085	3,422	52	3	2週無休開館 29	大 人	521	208	302	1,031	74
		中学生	8	168	130	306				中学生	6	29	26	61	
		小学生	171	449	324	944				小学生	15	143	77	235	
		小計	1,591	1,542	1,539	4,672				小計	542	380	405	1,327	
9	26	大 人	849	451	565	1,865	14	合計	319	大 人	9,025	4,014	5,364	18,403	774
		中学生	2	28	11	41				中学生	59	864	304	1,227	
		小学生	52	107	80	239				小学生	690	1,716	1,066	3,472	
		小計	903	586	656	2,145				小計	9,774	6,594	6,734	23,102	
10	26	大 人	630	295	509	1,434	271								
		中学生	0	15	45	60									
		小学生	55	357	51	463									
		小計	685	667	605	1,957									

※無料入館者はカウントに含まれない。

館からお知らせ①

平成20年度 博物館行事案内 2008. 4～2009. 3

行事名	開催日	行事内容
第9回こども金山探険隊	平成20年 7月26日(土)～27日(日)	お馴染み、夏休み恒例イベント。鉱山作業を丸ごと体験出来ます。なお、大人のみのご参加も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。
第8回砂金掘り大会・ 第5回東西有名校交流 砂金掘り大会	平成20年 8月中(現在調整中)	迅速かつ正確さを競う、競技としての砂金掘り。午後からは有名私学校対抗の交流大会となります。

◎平成20年度公開講座・第56回～第60回

10月から翌年2月までの各月1回の講義を開催。

※公開講座記録集として『金山史研究』を刊行。現在、第9集、10集を刊行準備中です。

◎金山遺跡見学会

10月、11月に各月1回開催

※見学地詳細日程については決定し次第、『館だより』、博物館ホームページにてお知らせ致します。

◎第2回日曜コンサート (予定)

◎親子映画観賞会

平成20年5月3日(土)、6月28日(土)、8月20日(水)、11月1日(土)、12月6日(土)、平成21年3月25日(水)

◎その他、企画展・特別展の開催などは順次お知らせしていきます。

各イベントは、都合により内容・日程などを変更する事もございますが、ご了承ください。また、上記の行事以外もございますので、各行事とも詳細が決定次第『館だより』や博物館ホームページでお知らせ致します。

寄付資料・追加展示について

このたび、身延町下部在住の佐野友一氏より、茅小屋金山の鉱山白1点と、早川・保金山の白1点、計2点を寄贈いただきました。茅小屋金山の白はこれまで確認されているものと比べると非常に初期的な形状をしており、興味深い資料です。また、早川保金山の白は、以前、佐野氏のご家族が採石業務に携わっていた際、保金

山直下の川砂の中に紛れて発見されたものということでした。このままにしておくよりも金山博物館で収蔵して研究資料に役立ててもらいたいというご意向から、このたび当館へご寄贈いただきました。保金山はじめ早川の諸金山からはこれまで白の確認がなかっただけに、今後の研究の貴重な資料になります。

常設展示・追加資料

- ・甲栄鉱山のるつぼ他、鉱山関連資料…灰吹きコーナーにて公開【佐野照雄氏(身延町波木井)より】
- ・保金山鉱山白1点、茅小屋金山鉱山白1点…鉱山白コーナーにて公開【佐野友一氏(身延町下部)より】
- ・西オーストラリアの金鉱石1点…鉱石コーナーにて公開【五味 篤氏(千葉県浦安市)より】
- ・石見銀山間歩螺灯復元ランプ6点…2階通路曲スロープに設置【久間英樹氏(島根県松江市)より】
(順不同)

・映像シアターからジオラマ展示室に向かう曲スロープに設置した「まぶらとう」は島根県松江高専の学生と博士らによって考案・設計されました。実際に江戸時代に暗い坑道内で灯り代わりに使用された栄螺の貝を使ったランプを模したもので、お客様に、金山へ誘う幻想的な雰囲気を感じていただくことが出来ます。

・甲府市で開催されていた「風林火山博」が閉幕され、県民情報プラザも県民の皆様の情報発信地として平常の様相に戻りました。「風林火山博」の開催中、当館からも鉱山白が出展されておりましたが、風林火山博事務局の皆様のご厚意により、鉱山白展示台をお譲りいただき、当館常設展示室にて引き続き、新しく発見された鉱山白などを公開しております。

ご寄贈くださった皆様の温かいお心に御礼申し上げます。

館からお知らせ②

平成20年度 友の会新規会員募集と更新のお知らせ

平成19年度「湯之奥金山友の会」も、160人を越える皆様に会員となっただけで、博物館にご協力いただきました。新年度に切り替わるとともに友の会も更新の時期を迎えましたので、お手続きのお知らせをいたしますと同時に新規会員を募集いたします。

入会されますと…

- ◎博物館常設展示・企画展が無料でご覧いただけます。
- ◎ミュージアム甲斐ネットワークに参加している次の県内13館の施設において割引対応いただけます。【山梨県立5館（博物館・美術館・文学館・考古博物館・科学館、）南アルプス市美術館、春仙美術館、白根桃源美術館、平山郁夫シルクロード博物館、清春白樺美術館、やまねミュージアム、安達原玄仏画美術館、河口湖木ノ花美術館】
- ◎年4回発行される『館だより』『友の会だより』が送付されます。また、各情報や行事案内が送付されます。
- ◎『展示図録』『金山史研究』など館発行物が友の会会員価格で購入できます。
- ◎友の会限定企画に参加することが出来ます。
- ◎会員期限は平成20年4月～21年3月末日迄。

年会費：

個人会員	
大人	1,000円
小中学生	300円
家族会員	2,000円
特別賛助会員	5,000円

◎入会方法◎

博物館受付にて直接お申し出いただくか、所定の郵便振込用紙にて会費をお振り込みください。振込用紙は博物館にお申し出いただければ、ご送付いたします。
その他、不明な点がございましたら、当館までお問い合わせください。

博物館日誌 (平成20年1月～3月)

3月	2月	1月
30日(日)	28日(日)	29日(土)
29日(土)	19日(土)	10日(木)
26日(水)	18日(金)	12日(土)
25日(火)	14日(月)	14日(日)
24日(月)	9日(土)	18日(木)
23日(日)	8日(金)	19日(金)
21日(金)	7日(木)	18日(金)
20日(木)	6日(水)	14日(月)
19日(水)	8日(土)	12日(土)
18日(火)	7日(金)	6日(木)
14日(金)	22日(金)	8日(土)
12日(水)	20日(水)	15日(金)
6日(木)	15日(金)	14日(木)
8日(土)	14日(木)	13日(水)
3月7日(金)	13日(水)	12日(火)
	12日(火)	11日(月)
	11日(月)	9日(土)
	9日(土)	8日(金)
	8日(金)	7日(木)

正月・仕事始め

『博物館だより43号』発行、FM富士、ラジオ出演
甲斐金山遺跡プロジェクト記者発表
小正月行事・どんと焼き、団子作り
成人の日

山梨日新聞取材、西オーストラリア鉱石1点追加展示
第54回公開講座・谷口一夫館長・齊名貴彦学芸員
J R 東海広報誌取材撮影

原小学校地域学習
静岡第一テレビ取材撮影
第55回公開講座 村上隆先生

MOA 児童作品展 17日 於多目的ホール
身延山高校課外学習
静岡第一テレビA

学芸員実習 23日迄(身延山大学・高田充弘君)
南部警察署感謝状贈呈式、鉱山白寄付(佐野友二氏より)

下部小3年課外学習
館内メンテナンス
しもへ温泉まつり実行委員会

平凡社取材撮影
双葉中1年県内めぐり、冬のイルミネーション終了

20日(水) 館内メンテナンス
22日(金) しもへ温泉まつり実行委員会
28日(木) 平凡社取材撮影
29日(金) 双葉中1年県内めぐり、冬のイルミネーション終了

15日(金) 南部警察署感謝状贈呈式、鉱山白寄付(佐野友二氏より)

14日(木) 学芸員実習 23日迄(身延山大学・高田充弘君)

13日(水) 静岡第一テレビA

12日(火) MOA 児童作品展 17日 於多目的ホール

11日(月) 身延山高校課外学習

9日(土) 第55回公開講座 村上隆先生

8日(金) 静岡第一テレビ取材撮影

7日(木) 原小学校地域学習

6日(水) 山梨日新聞取材、西オーストラリア鉱石1点追加展示

8日(土) 第54回公開講座・谷口一夫館長・齊名貴彦学芸員

7日(金) J R 東海広報誌取材撮影

3月7日(金) 館内メンテナンス

22日(金) しもへ温泉まつり実行委員会

28日(木) 平凡社取材撮影

29日(金) 双葉中1年県内めぐり、冬のイルミネーション終了

20日(水) 館内メンテナンス

22日(金) しもへ温泉まつり実行委員会

28日(木) 平凡社取材撮影

29日(金) 双葉中1年県内めぐり、冬のイルミネーション終了

編集後記

いよいよ新年度がスタートします。子どもたちの多くが、新しい環境の中に置かれ、新しいことを学び、少しの不安を感じながらも、新鮮さに胸躍らせ、大きな期待を持って新学期を過

ごすはず。同じように大人の中にも新しい環境に置かれ、とまどう人が大勢いるかも知れませんが、大丈夫。一番大事なのはやる気。やる気さえあれば何とか乗り切っていけるものです。子ども時代を思い出して、ひとつここは気合いを入れていきましょう。新年度を迎える博物館もスタッフ一同、そんな気構えで臨みます。

博物館だより 第44号 平成20年3月31日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html 博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp